

心が響き合う子供を育てる道徳教育

— 生き方を哲学する子供を目指して —

足利市立毛野小学校 佐々井 信子

1 基本的な考え方

「道徳の時間」から道徳教育へ スタート！

道徳教育とは・・・一人一人の子供たちが人間としてよりよく生きる力を身につけ、心豊かに生きていくためのものである。

よさとは・・・・人間としてよりよく生きようとする姿勢そのものが、人間としてのよさであり、その過程において身につけるさまざまな力は、その人らしいよさとして独自の個性を形成していく。

これから道徳教育は、このような子供自らがよさをひらき、伸ばし、生かす学習を充実させる必要があると考え、本校では、子供一人一人のよさに着目する教育を通して、子供たちの心に響き合う道徳教育を目指しています。「道徳の時間」を道徳教育のかなめとして充実させ、子供たちの心に響き、響き合いを感じながら、心が動く指導に取り組んでいます。

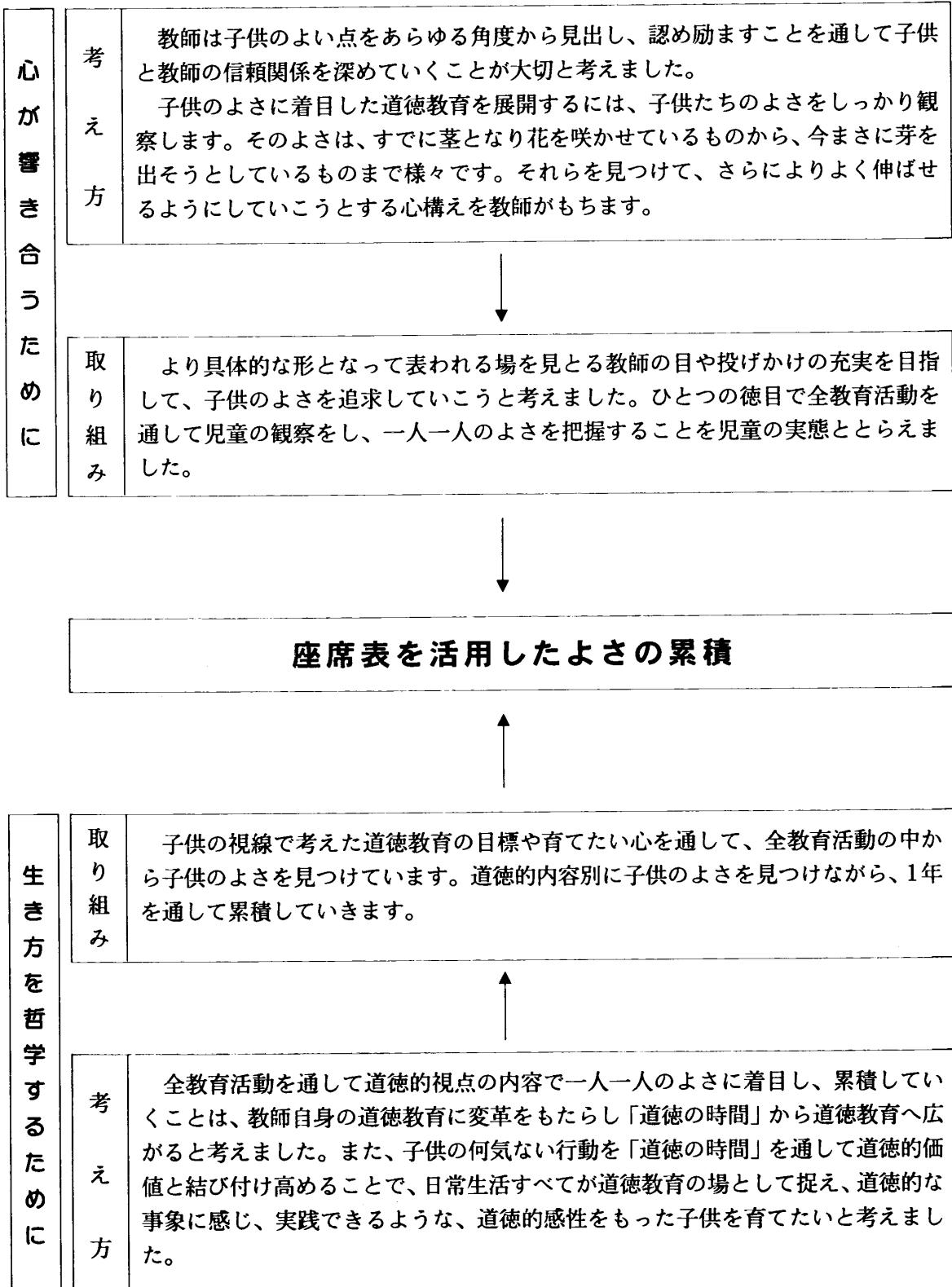
これは、単なる指導法上の問題ではなく、教育を支える子供観そのものの変革、[ちょっと変わらなくっちゃ！ 道徳教育 毛野小から発信!!] の原点になります。よさに着目した道徳教育を推進することで、教師自身の道徳教育に大きな変化をもたらすことが期待されています。

また、21世紀に向かって、豊かで便利な社会の中で失われつつある人間性を回復させるために、[人間とはなんだろう] ということを問う、つまり生き方を哲学することが大切になると考えました。教師と子供たちが一緒になって、道徳の時間に哲学し自分の生き方を見出していくとき、人間性が磨かれ、よりよく生きていこうとする道徳性が確かになるだろうということを期待しています。教師の生き方が反映され、子供たちの心に響き心を動かす道徳の授業の工夫に取り組んでいます。

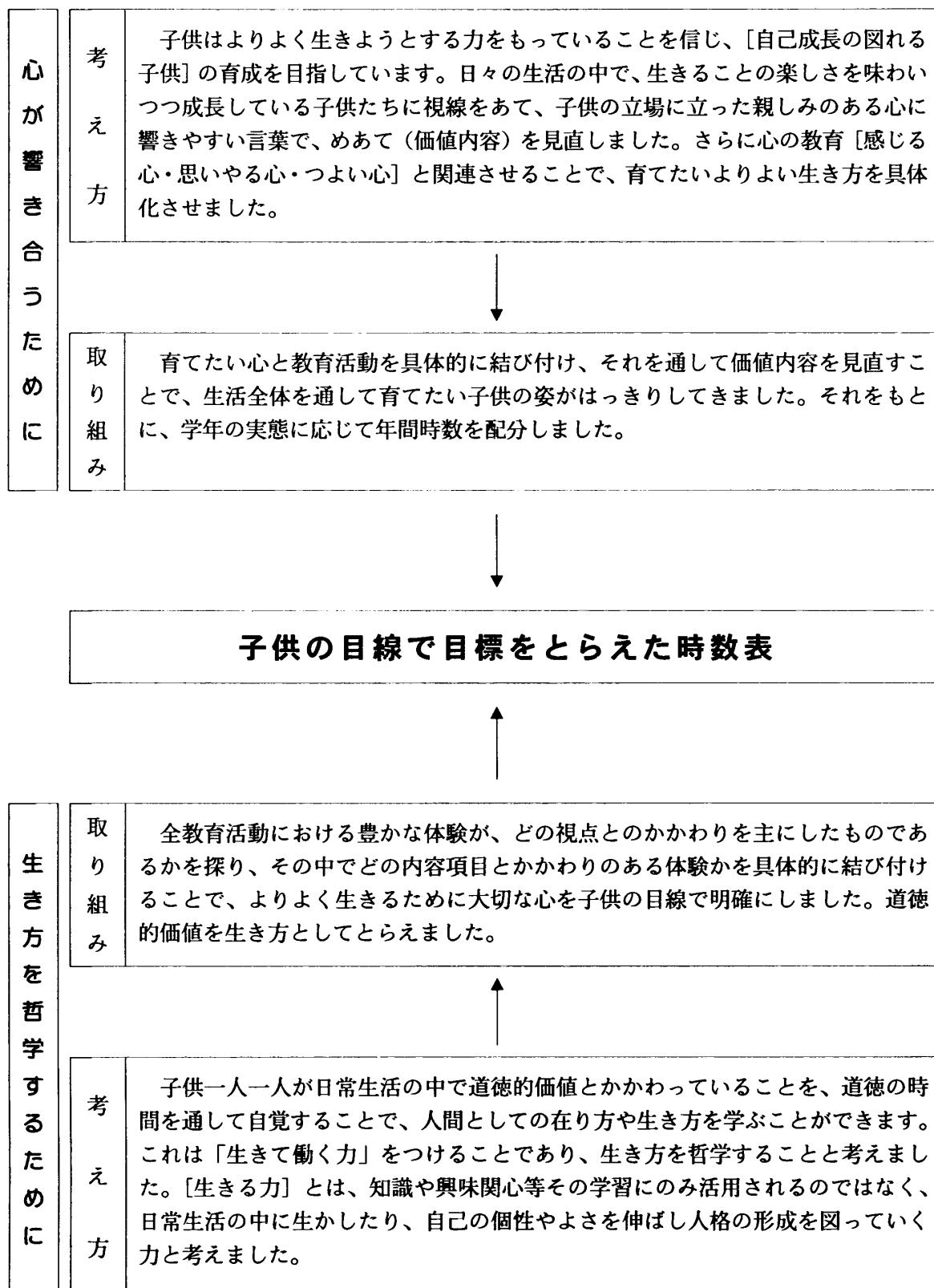
以上の考えをもとに、『ちょっと変わらなくっちゃ！ 道徳教育 毛野小から発信!!』ということで取り組んだことを、「心が響き合うために」と、「生き方を哲学するために」の両面からまとめてみました。

2 取り組みについて

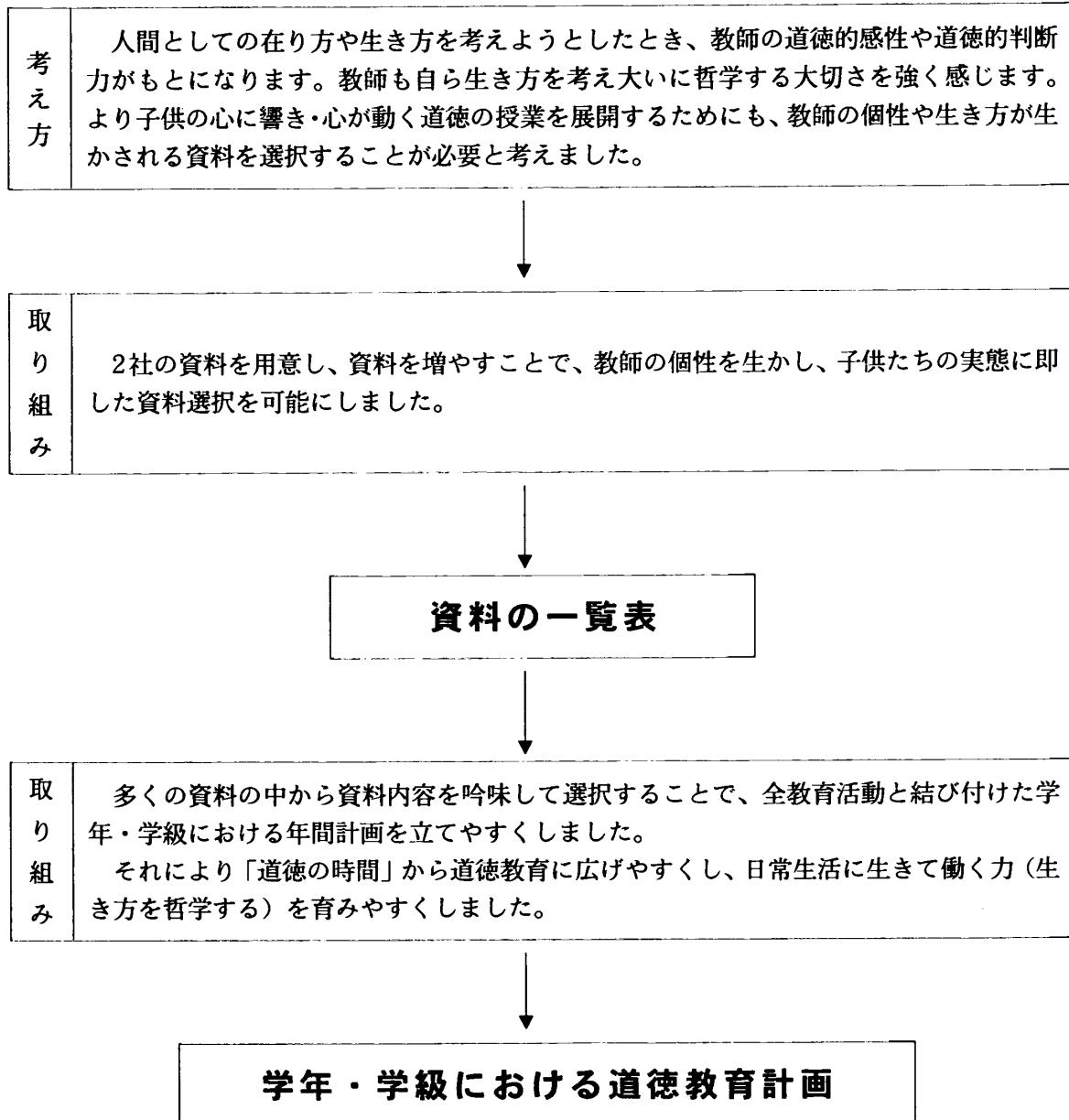
(1) 子供の信頼を基盤として よさを引き出す



(2) 子供の目線で道徳教育を考える



(3) 教師自らが生き方を哲学するために



(4) 道徳的感性や道徳的実践を心に響き合わせるために

表現活動は、他人に理解してもらえたり役に立てたりするので、心の響き合いが効果的に行われると考えました。そこで、自らの思考の中で、自らのよさを生かす場合と、集団での活動や学習の中で生かす場合を考えて、それらのよさの成長が起こるような支援をしていきます。

朝の会や帰りの会を工夫することはもちろん、例えば、ありがとうの気持ち・がんばったことなど学校行事やその他の活動を通して心に感じたことを表現させて、学級・学年掲示板に掲示します。これは、「道徳の時間」から道徳教育へ広げることも意味します。

(5) 子供に学ぶ

心が響き合うために	<p>考え方</p> <p>子供たちが存在している、生きているそのものがよさの基本です。だから、意欲的に活動することは、よさをひらいていいると考えます。そのため、各教科や道徳・特別活動・総合的な学習の時間の授業内容は、一人一人がもつよさをひらいていくための窓口として捉えます。さらには、学校生活や家庭・地域・社会においても、自らの可能性に挑戦している場と考えます。</p> <p>つまり、あらゆる場で子供たちのやろうという心を見とり、それを授業で生かせたら、道徳教育のはじめの一歩になるだろうと考えました。</p>
-----------	---



取り組み	<p>指導構想として「道徳の時間」と事前・事後とを関連させて授業を構成します。さらに、授業後も、学校教育活動全体を通して響く言葉を生かしながら指導にあたり、道徳教育の推進に取り組みます。</p>
------	---



授業展開の工夫・主題名・指導構想



生き方を哲学するため	<p>取り組み</p> <p>子供自らよりよく生きようとする意欲を高めるために、子供一人一人のよい点を中心に考え、よくない点は課題と考えて資料を選択し、よさに着目したねらいになるよう工夫して明るい展望に立つ授業を心がけます。よくない点を中心に考えると、そこを注意し取り締まる道徳の時間になってしまいがちになるからです。さらに、主題名を教師の子供観と捉え、生き方を哲学し心に響く言葉を模索し、相互に学び合い高め合える道徳教育に取り組みました。</p>
------------	--



考え方	<p>人間としてよりよく生きていくことは子供のみの課題ではありません。教師自身もまた課題であり一生求めていくものです。教師が子供に学ぶ姿勢をもつことは、教師の生き方を反映していることで、それは子供たちの生き方にも影響し、友達や先生から学ぼうとする姿勢につながると考えました。</p> <p>よさに着目してより高い価値に導くためにも教師が生き方を哲学することが大切だと考えました。</p>
-----	---

生き方を哲学する授業展開の工夫

教師と子供たちが一緒になって、道徳の時間に哲学し自分の生き方を見出していくとき、人間性が磨かれ、よりよく生きていこうとする道徳性が確かになるだろうと考えました。

そこで、子供の心に響き心を動かす具体的なキーワードとして、主題名を特に大切に扱い、子供と共に哲学する道徳の授業を工夫しています。

(1) [気づく] 段階 ~という感覚を探ってみよう

授業をしようとする道徳の内容を、子供たちはどのように捉えているのか。それを、子供たちが抱いている道徳的な感覚として把握し、そこに不足しているものの見方を明らかにする。そして、さらにどのような方向から道徳的に高めていけばよいのかという見通しをもつ。

(2) [考える] 段階 ~に対するものの見方を獲得するための手だて

前段階で明らかになった新しい視点に沿って、子供が授業の中で自分のものの見方を新たに形成していくための手だてと、そのための効果的な資料を選定する。

そして、授業に用いる資料の紹介と、その資料をどのような見方で読み取っていけば新しい視点が開拓できるのかを分析する。

(3) [深める] 段階 ~についてのものの見方を深めていく授業展開・子供の哲学

子供たちが、いかに道徳的にものを見たり考えたりしているかにこだわるところである。今まで思っていたことよりさらに一步深めて「あっ なるほど！」と何か発見できるように工夫していく。そのために、子供の『心に響くことば』を探り、子供の生き方を哲学できるように投げかける。

(4) [見つめる] 段階 子供一人一人のよさに着目

『心に響くことば』(キーワード) をもとに、さまざまな体験活動の中から自分のよさ・友達のよさに気付かせながら、心の響き合いを実感させ、より道徳的価値の自覚を深める。

(5) [高める] 段階 夢と希望と勇気を育む

学習活動を工夫することで、よりよく生きようとする心をより強い力へと高め、明るい展望に向かって、道徳的にこだわりをもって行動する子供たちを育んでいく。

【道徳：座席表の例】

# 友達に「静かにして」と注意をされた。	友達が遅刻して来ただとき、わからぬことを教えてあげた。	一人でいる子に「遊ぼう」と遊んで一緒に遊んだ。
# 悪いことを「ごめんなさい」と謝ったところができる。	友達が転立を言うのをとどめたいとき、謝ってあげた。	友達が泣いていたときに声をかけた。
家で一人で寝ているおばあちゃんがかわいいそらちゃんと言つておばあちゃんの部屋でねている。	友達が困っているのを見て、手伝つてあげた。	友達が物をなくして困つているまどきを見つかりで探してくれた。
隣の子が教科書を忘れてしまったとき、「どうしよう」と声をかけた。	係り活動の分担を決めるとき、みんなが選ばなくてくられた。	母親が具合が悪いとき、「大丈夫」と言つて心配してあげた。
弟がくすって歩くの嫌がつたとき、「おんぶしてあげた。	母親が仕事で疲れているのを見送るとき、「おんぶしてあげた。	友達がふでいで忘れを見て、鉛筆を貸してあげた。
(主題名) いいかお		

# 友達が立いていた隣のクラスの友達が泣いていたとき、声をかけていた。	隣のクラスの友達が泣いていたとき、声をかけた。	友達に悪いことを行つたとき、ことを認め謝った。
# 母親が赤ちゃんなの世話を大変なとき、お手伝いを頼んだら引き受けてくれた。	母親が買い物にでて雨が降って好きだつてレジでお金をかかへ迎えに行つた。	友達がおはじしまを忘れてしまって困つてあげた。
# わがままを言つてしまったり替えて困つていたとき、声をかけた。	友達が泣いていたの」と声をかけてあげた。	隣の子が道具箱の整理をしないでうまくできなくて困つていたとき、手伝つてあげた。
# 友達がふでいで忘れを見て、鉛筆を貸してあげた。	母親が仕事で見送るとき、「おんぶしてあげた。	友達が熱をだして寝込んだとき、頭を冷しあげたり顔をふいてあげた。

(ねらい) 自分の素直な心ややさしい心に気付き、自信をもつて、明るい気持 ちで生活しようとする心構え育てる。
素直さが感じられた行動 やさしさが感じられた行動

1年

～子供の目線で目標をとらえた時数表～

心の教育	主題名(例)	〔視点2〕わたしは人々とどのような関係でいたいか	低	時数	中	時数	高	時数
感じる心	あこがれ	(低学年) いろいろなことができる人を見てそのようになりたいと思う。 (集団活動 集会活動 遊び…) (中学年) 上級生に対して尊敬の気持ちをもつ。 (委員会活動 縦割り集団…) (高学年) 社会を支えている人々に対して尊敬と感謝の気持ちをもつ。 (PTA行事 地域行事 通学…)	(4) 尊 感 謝	2 ②	(4) 尊 感 謝	2 ②	(4) 尊 感 謝 (報酬)	2 ①
思 い い	思いやり	(低学年) 困った人に対してかわいそうだという思いをもち、助けようとする。 (忘れ物 落とし物 探し物…) (中学年) 他の人にに対して自分にできる手助けをする。(手伝い お世話…) (高学年) 他の人が本当に困っているかどうかがわかり手助けをする。 (座席をゆずる 共同学習 自由行動…)	(2) 思 い や り 親 切	3 ③	(2) 思 い や り 親 切	2 ③	(2) 思 い や り 親 切	1 ②
や る 心	慈しみ	(高学年) 年下の子をかわいがろうとする。 (遊び 縦割り集団活動…)					(2) 思 い や り 親 切	
ふ れ い 心	助け合い	(低学年) 友達と気持ちを合わせて行動しようとする。 (遊び 当番 集団行動…) (中学年) 友達と助け合ってよりよい生活をしようとする。 (遊び 練習 共同学習…) (高学年) 相手のことを考えて相手のためになる手助けをしようとする。 (班行動 集会活動…)	(3) 信 友 情 助け合い	3 ③	(3) 信 友 情 助け合い	3 ③	(3) 信 友 情 助け合い	2 ②
つ よ い 心	ふれあい	(低学年) 人と声をかけあうことの楽しさを知り、楽しむ。 (あいさつ 遊び おつかい…) (中学年) 他の人の心づかいに気づいて互いに親しもうとする。 (集会 遊び 班学習…) (高学年) 人にはそれぞれのよさがあることがわかりだれにでも親しみをもとうとする。 (遊び 集会活動…)	(1) 礼 儀	3 ③	(1) 礼 儀	2 ②	(1) 礼 儀	1 ①
	ゆずり合い	(高学年) 相手に同情して自分をがまんしようとする。 (遊び クラブ活動 運動ゲーム 列の順番…)					(4) 寛 容 謙	1 ①

～一覧表～

[視点2] わたしたちは人々とどのような関係でいたいか

(2学年)

心の教育	時数	主題名	資料名 (価値内容)	ねらい	指導構想	出版社	備考
感 じ る 心	2	あこがれ (ありがとう) (かんしゃの こころ)	へんとうせんの とき (尊敬・感謝)	家族の人たちの温かい気 持ちをくみとり、感謝の念 や親愛の情をもとうとする 態度を育てる。	家族参観 遠足	日本書籍	
			ゆきの あさ	自分たちのために尽して くれる人々の苦労を知り、 感謝しようとする心情を育 てる。	感謝の集い 給食指導		光文書院
思 い や る 心	3	思いやり (いっしょにの力) (どうぞ)	あっ、見つけた (思いやり・親切)	身近にいる人たちに温か い心で接し、親切にしよう とする態度を育てる。	秋の遠足 生活科 (あそびに おいでよ)	日本書籍	
			くりの み	友達や弱い人に対して、 親切にしようとする気持ち を育てる。	図工 生活科 児童集会		資料 日本書籍
		(しんぱいの力) (やさしい力)	雨の日の みちあんない	お年寄りに心を寄せ、自 分にできることを精一杯し ようとする心情を育てる。	家族参観 毛野っ子集会	光文書院	
			ぐみの木と小鳥	身近にいる人ととの間 には思いやりの気持ちがた くさんあることがわかり、 その気持ちを大切にしよう とする心情を育てる。	給食 体育 遠足 清掃		資料 光文書院
助 け 合 い る 心	3	助け合い (ともだちの力) (こころの ともだち)	えみちゃん よかったね (信頼・友情 ・助け合い)	友達と仲良くし、助け合 う気持ちを育てる。	音楽 体育 算数	日本書籍	
			ないた赤おに	友達と仲良くし、困った ときはお互い助け合い、励 ましあっていこうとする気 持ちを養う。	清掃 体育		紙芝居 日本書籍
		(いっしょ) (みんなともだち)	ぼくのかさに はいったら	友達同士お互いに助け合 い、心の通う友達をつくろ うとする意欲を高める。	公園たんけん 休み時間	光文書院	
			せのび	自分のことだけでなく、 相手の気持ちもよく考えて、 互いに仲良く助け合おうと する心情を育てる。	秋の遠足 運動会		光文書院

2学年1組における道徳教育計画

研究のテーマ

心が響き合う子供を育てる道徳教育
～生き方を哲学する子供を目指して～

クラスのめあて

きらりを合い言葉に「ねばり玉・気づき玉・
ハート玉」を光らせよう。

クラスの実態

明るく元気である。自己中心的な面がやや強いので、行動に意味をもたせて進んで実践できる子を目指したい。

心の教育 月	主 题 名	資 料 値 内 容	出版社	指 導 構 構			想	備 考
				学校行事・児童会活動	各教科・特別活動 総合的な学習の時間	日常活動 その他の活動		
9 思 強	しんばいの力 つよくなる	雨の日のみちあんない（思いやり・親切） ぼくはいかない（勇気）	光文書院 光文書院	家族授業参観 運動会			敬老の日	学年揭示
9 思	あこがれ	しんぶんしのシャツ（家族）	光文書院	演劇教室（シンデレラ）				
9 思	いっしょ	ぼくのかさにはいったら（友情・協力）	光文書院					
10 思 強	エチケットのこころ がまんの力	おじいさんの手がみ（社会規範） るっぺどうしたの（筋度・自立自制）	日本書籍 日本書籍		サツマイモ収穫祭	体育の日		
10 強	みんなともだち	せのび（友情）	光文書院	遠足		秋祭り		
10 強	ゆうきの力	このままではいけない（勇気）	日本書籍					
10 強	かつやく	日曜日のそうじ（勤勉・努力）	日本書籍	学校美化週間			勤労感謝の日	
11 感	きらりのこころ	ひかりのほし（敬けん）	光文書院	交通安全教室	読書		共励賞	
11 強	がんばる力	わたしものりたい（勤勉・努力）	光文書院	避難訓練	体育（マラソン大会）			
11 強	どうぶつともだち	いなくなったタロ（自然愛）	日本書籍		生活科（おいしいあきみつけた）			
12 思	やさしさの力	ぐみの木ことり（思いやり）	光文書院	授業参観（同和教育）	生活科（冬祭り）		年末行事	
12 思	ちゃんとのこころ	これでいいのかな（礼儀）	日本書籍	歳末助け合い募金	生活科（もうすぐお正月）			

道徳教育全体計画

教育目標 21世紀をいう望ましい人間像として、社会の変化に自ら対応できる、心豊かで、創造性に富み、実践力のある日本人の育成を目指す。

児童の具体像 (1) 進んで学ぶこども (2) 思いやりのあるこども (3) ねばり強いこども

指標 毛野の子は 元気に よりよく生きようとする児童の育成

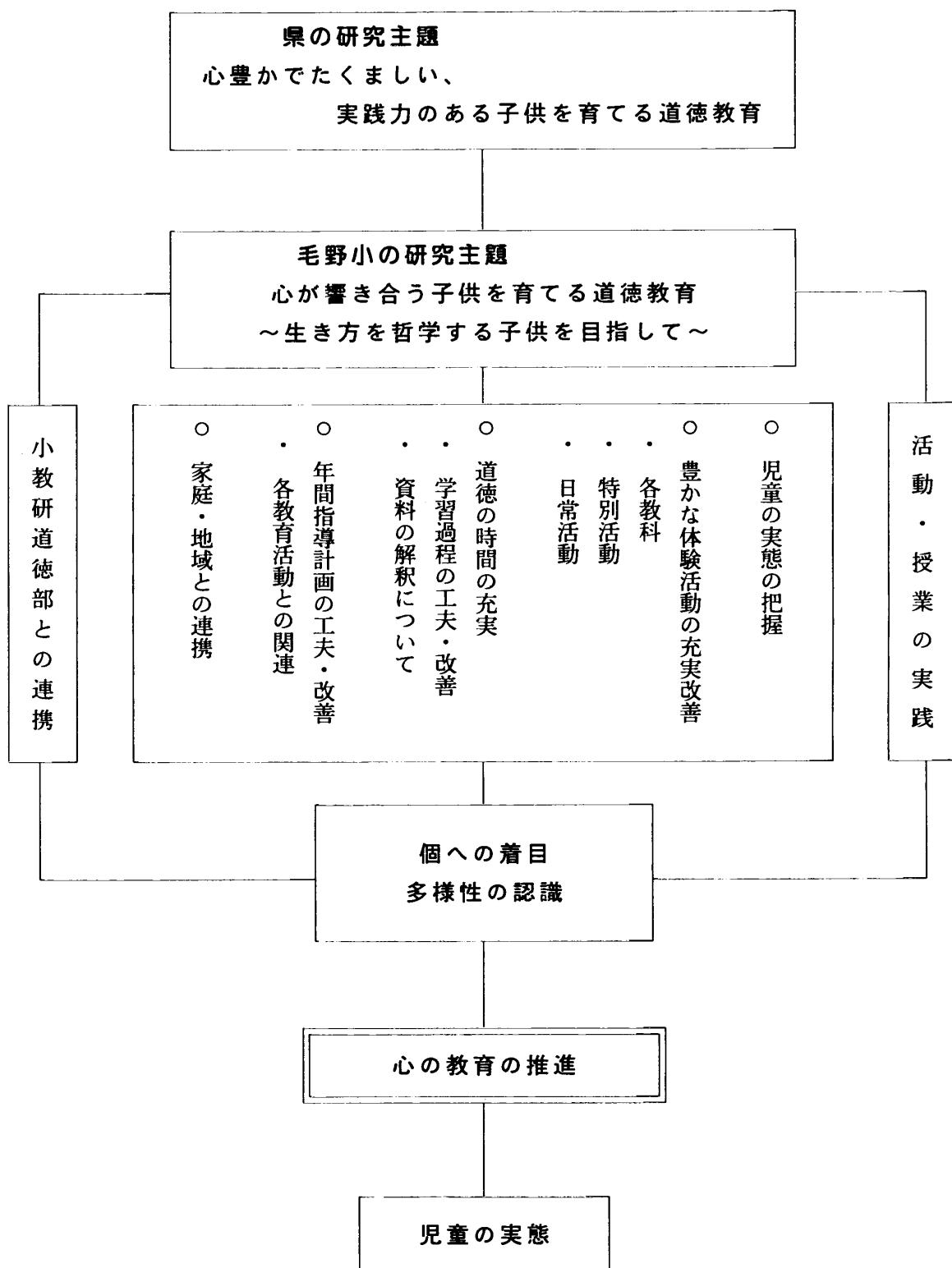
道徳教育目標 明るい心で 元気に よりよく生きようとする児童の育成

- 道徳教育重点目標**
- (1) 明るく素直な気持ちで元気に生活する。
 - (2) 自分で考え、進んで取り組む。
 - (3) 社会の一員として、相手のことを思いやり、行動できる。
 - ・助け合って行動できる。
 - ・自然に親しみ、他の生命を大切にできる。
 - ・働くことの大切さを知り、他の人のために働くことができる。
 - (4) 責任を持って、最後まで、やりとおす。

学年別重目標			
重点目標	低学年	中学生年	高学年
1	・明るくあいさつできる	・明るい気持ちで生活する	・広い心で、他人の意見を受け入れる
2	・自分でできることは自分でする	・進んで新しいものに取り組む	・目標に向かって、責任を持って努力を続ける
3	・友達と仲良く、みんなに親切にする ・やさしい心で、動植物をかわいがる ・みんなで使うものを大切にして、約束やきまりを守る	・相手の気持ちを思いやり、助け合って、明るく生活する ・身近な自然に親しみ、生命の尊さを知り、命あるものすべてを大切にする ・決まりを守って、協力して働く	・広い心で、気持ちや立場を思いやり、お互いに明るく接する ・自然を愛するとともに、他の生命を尊重し、大切にする ・規則を守るとともに、協力して、社会に奉仕し、公共のために尽くす
4	・ねばり強く、がんばる	・くじけそうになっても、ねばり強くがんばる	・いろいろな考えを出し、よいものにしようと努力し、実践する

各教科		道徳の時間	特別活動		
国語	国語を正確に理解し、表現する能力と言語感覚を養い、人間性を豊かなものにしようとする心情を育てる	各教科・領域の指導と密接な関連をさせた具体的な価値判断の場で自己を見つめさせることによって、道徳的価値を内面に自覚させ、道徳的実践力の育成を図る。	新しい学級づくりを進める活動を通して、基本的な生活習慣の形成や望ましい人間関係の育成、意欲的な学習態度の形成を育てる		
社会	広い視野と社会生活についての理解を図り、郷土を愛し、人々に感謝する心情を育てる	。 年間計画の工夫改善	楽しい学校生活の実現を目指す諸活動や学校生活を楽しくするための行事の企画・実践的態度を育てる		
算数	課題をしっかりとこなす、筋道を立てて考えられる能力を育てるとともに、進んで生活に生かそうとする態度を育てる	。 資料の解釈についての実感に基づいていることの実感に根ざして	異なる集団の長所を生かした実践的な活動を通して、お互いに理解し、尊重し、協力し合う中で、望ましい道徳性を育てる		
理科	観察・栽培や動植物に親しむ活動を通して、自然を愛し、生命を大切にする心情を育てる	。 指導過程の工夫改善	学校生活に秩序と変化を与える全校的集団活動によって、児童の心身の健全な発達を図り、協力・責任・公共心・健康安全・勤労などの態度を育てる		
生活	具体的な活動や体験を通して、自己を見つめ、生活上必要な習慣や技術を身に付ける	。 自己を見つめる指導の工夫改善			
音楽	表現や鑑賞の活動を通して、音楽の楽しさを感じ取らせ、豊かな情操を培う	。 道徳的内面化のあり方			
図工	表現や鑑賞の活動を通して、豊かな情操を育て、粘り強くやり抜く態度を育てる	。 道徳的実践力の育成のあり方			
家庭	家庭生活についての理解を深め、家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的態度を育てる				
体育	適切な運動の経験を通して、運動に親しませるとともに、健康の増進と体力の向上をはかり、楽しく明るい生活を営む態度を育てる				
総合的な学習の時間		その他の活動（日常活動等）			
		領域外の活動を通して体験的活動をする中で道徳的実践力を育てる。			
共に認め励まし合う学級経営					
家庭・地域					

道徳教育研究推進構想



評

人間は、本来人間としてよりよく生きたいという願いをもっています。この願いの実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立ちます。つまり、道徳教育は、人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。

本研究においては、これらの趣旨を十分踏まえ、人間としてよりよく生きようとする姿勢そのものを人間としてのよさと捉え、子供一人一人のよさに着目する道徳教育を大切にされた教育実践に取り組まれています。具体的には、教師が子供のよさをあらゆる角度（例えば、事前指導、事後指導や日常生活における体験など）から見い出し、子供一人一人のねらいとする道徳的価値にかかわるよさを座席表を活用して積極的に把握し、そのよさを道徳の時間などで伝え、よりよく伸ばしていくことに努めています。そのことによって、子供たちは、自分のよさ 友達のよさに気付き、自分の、そして、友達の心の奥底にあるよりよく生きようとする心を自覚し、「心が響き合う」人間関係が、育まれていくものと考えられます。

また、本研究では、道徳教育全体計画、道徳の時間の年間指導計画、学級における道徳教育指導計画の見直し、改善に基づき、全教育活動をとおして一貫性のある道徳教育の推進に努めています。特に、道徳の時間の年間指導計画においては、「子供の目線でとらえた時数表」を作成して、低・中・高学年における重点的指導内容を明確化し、それらに基づき年間指導計画が作成されています。そして、道徳の時間の展開においては、「気付く・考える・深める・見つめる・高める」段階を設定し、教師と子供たちが一緒になって自分の生き方を哲学し、自分の生き方をみつめ、道徳的実践力を養うことを目指しています。

各学校においても、この貴重な提案をぜひ参考にしてください。